

国指定史跡

白河関跡

白河関跡



歌枕からおくの細道へ

関としての機能が失われた後、白河関は、歌枕(和歌の名所)として歌人・俳人の憧れの地となりました。西行法師や一遍上人、飯尾宗祇など、そうそうたる歌人たちが歌心をかきたてられました。

江戸時代になり、松尾芭蕉は、生涯「旅を栖か」とし、白河関を越える旅に思いをはせました。元禄2年(1689)3月27日(新暦5月16日)、あこがれを抱いていたみちのくへ向けて、弟子の河合曾良とともに江戸を旅立ちます。その旅の紀行文が、有名な『おくの細道』です。4月20日(新暦6月7日)に白河の地にたどり着いた芭蕉は「白河の関にかかりて、旅ごころ定まりぬ」と、みちのくの第一歩を踏み出した感動を込めて記しています。

幌掛の楓



源義経が、安倍貞任攻め(前九年の役)のために白河関を通過する際、社前の楓に幌をかけて休息したとの伝説があります。現在の楓は植え替えたものです。

旗立の桜



源義経が平家討伐のため平泉を出発し、社前に戦勝祈願をした際、この桜に源氏の旗を立てたとの伝説があります。

矢立の松

源平合戦の際、源義経が平家討伐に向かうとき、戦勝を占うために社前の松に弓矢を射立てたとの伝説があります。現在は、その根株を残すのみとなっています。

みちのくの玄関口「白河関」

奥州三古関の一つに数えられる白河関は、奈良時代から平安時代頃に機能していた陸奥国と下野国の国境に設けられた関で、人や物資の往来を取り締まる検問所の機能を果たしていたと考えられます。10世紀に入り、律令制(法律による国の運営)の衰退とともに関としての機能は失われていきました。

その後、白河関の場所は不明になっていましたが、白河藩主松平定信は、絵画や記録、伝承から考証を行い、寛政12年(1800)、現在地が白河関跡であると断定し「古関蹟」の碑を建てました。

古関蹟碑▶



昭和34年(1959)から行われた発掘調査で、竪穴住居跡や鍛冶工房跡、掘立柱建物跡などが確認されたほか、8・9世紀の土師器や須恵器、鉄製品が出土しました。この結果、現在地が白河関跡の条件にかなう点が多いことから、同41年(1966)に国史跡に指定されました。

白河関ゆかりの和歌・句

- 西行法師 白河の 関路の桜 咲きにけり 東より来る 人の稀なる
- 一遍上人 行く人を 弥陀の誓ひに 漏らさじと 名をこそとむれ 白河の関
- 飯尾宗祇 袖にみな 時雨を関の 山路かな
- 松尾芭蕉 風流の 初やおくの 田植うた
- 曾良 卯の花を かざしに関の 晴れ着かな

従二位の杉



鎌倉時代初期の歌人で「新古今和歌集」の撰者の一人である藤原家隆(従二位宮内卿)が、手植えし奉納したと伝えられる杉の巨木です。樹齢は約800年と推定されています。

中世館跡の土塁・空堀



丘陵上に現存する土塁や空堀。発掘調査で丘陵の全体から確認された柵列跡や門跡は、中世(鎌倉～室町時代)の館跡に伴う遺構と考えられます。土塁と空堀に囲まれた範囲が主郭と想定されています。

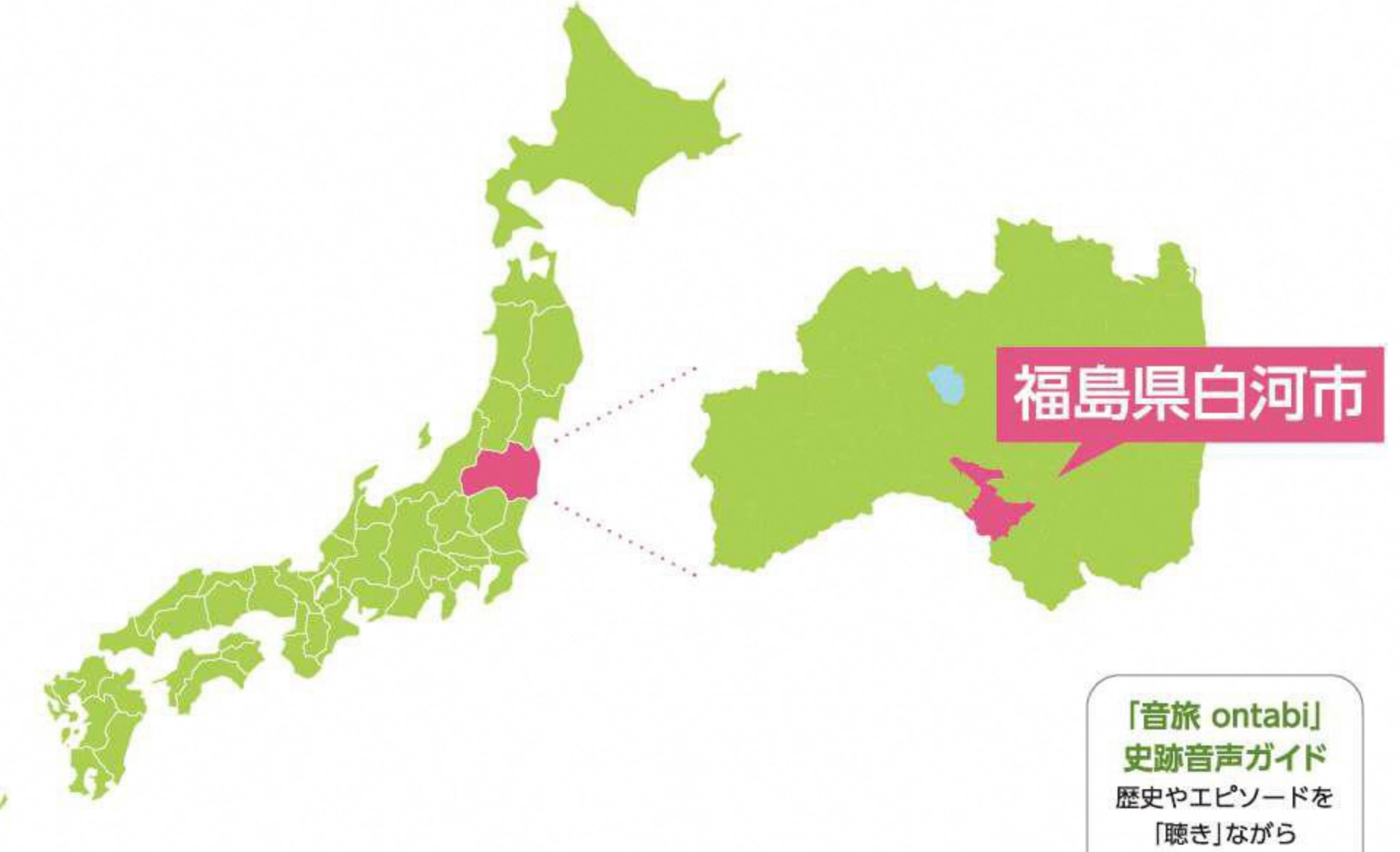


交通アクセス

車: 東北自動車道白河ICから20分
白河中央スマートIC(ETC専用)から20分

鉄道: JR東北新幹線・東北本線
新白河駅から白河駅前経由
バス40分「白河の関」下車

駐車場: 無料20台
※混雑時・大型バスは
白河関の森公園駐車場
をご利用ください
(無料150台)



白河市産業部観光課

〒961-8602 福島県白河市八幡小路7番地1
TEL.0248-22-1111 FAX.0248-24-1844
✉ kanko@city.shirakawa.fukushima.jp

「音旅 ontabi」
史跡音声ガイド
歴史やエピソードを
「聴き」ながら
歩いてみませんか?



